

横浜市立 今井小学校 平成30年度版 中期学校経営方針 (平成28～30年度)

学校概要				
創立 138 周年	学校長 森脇 信行	副校長 ニノ宮 淳子	学期 2 学期制	児童・生徒数 356 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 3			主な関係校: 橋中学校・左近山中学校	

学校教育目標

『かがやいている子』
 ◎課題解決に向けてねばり強くやりとげる子を育てます(知)
 ◎自他のよさを認めて行動する思いやりのある子を育てます(徳)
 ◎自他の生命を大切にす元気で明るい子を育てます(体)
 ◎人や自然、地域を大切に、自らできることを実践する子を育てます(公)
 ◎様々な人とのコミュニケーションを通して、視野を広げ、深く考える子を育てます(開)

学校の特徴

□明治13年に開校し、138周年を迎えた。環状2号線に至近でありながら、学校の周辺が緑で囲まれているため、大変静かな教育環境を維持できている。地元の方々には学校への協力を惜しまない。PTAは、地域・学校との連携を取り、大変協力的である。学校教育に対しても好意的・積極的で「今井小が大好きなんです。」「今井小で卒業させたいんです。」と多くの保護者に言ってもらえている。
 □創立以来、地元と密接な関係を保っている。近年学区に分譲マンションが多く建設されたため児童数の極端な減少もなく、活気がある。鎌倉時代以降の史跡も点在するため学習に役立っている。
 ■校内重点研究を通して、職員同士学び合う姿勢が育っている。このことから子どもたちの学力向上への一層の期待ももてる。
 ■学力学習状況調査の結果から、学習に対する意欲は高いが、なかなか定着が図れていない現状が浮かび上がってきた。また、家庭学習の時間が短いことも課題としてあがっている。

学校経営中期取組目標

◎子どもたち全員が、『自分大好き！今井大好き！』『自分ってなかなかやるじゃん！』と思えるように、子ども一人ひとりを大切に、今井の地域に生きる子どもを育てます。
 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、問題解決を通して子どもの表現力を引き出し・伸ばしながら学力を向上させます。
 ・子ども一人ひとりが、自分の居場所や自尊心がもてるよう、指導・承認・賞賛・励ましをタイムリーに行い、楽しく学校生活を送れるようにします。
 ・命の尊さを実感し、健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。
 ・学校だけでは味わえない豊かな体験「地域の行事」にも意欲的に参加し、「人」とのつながりを意識し、『今井大好き！』な子どもを育てます。

小中一貫教育の取組

	橋中学校 ブロック : 橋中学校 仏向小学校 初音が丘小学校 藤塚小学校 今井小学校
9年間で育てる子ども像	基礎基本の定着と確かな学力の向上を目指す小中一貫教育 ～共に学び合い、認め合い、支え合える人間関係を育てる小中連携～ 共通取組…あいさつのできる子
自校の具体的取組	○中学校との授業参観による交流を行い、研究協議会を行うことで連携を深める。 ○児童生徒交流日を中心に中学校との子ども同士の交流を図り、連携を密にする。 ○専任会や実務者会での話し合いをもとに、今井の子どもらしく自分の意思をもって流されない子どもを育てる。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
--------	------	-------

確かな学力	教材研究の時間を十分に確保し、指導法を工夫することで、子どもたちに確かな学力を付けていく。	○重点研究(道徳)では、子どもたちが学習課題を自分としてとらえるための手立てを打ち、見方・考え方を広げられる道徳の授業を目指していく。そこで得た学び方や人間関係を他の教科に結び付け、子どもたちが確かな学力を身に付けられる授業を行う。 ○朝の帯取り時間のアイデアを学校で共有し、各学級の事態に応じた時間にしていくことで、確かな学力を付けていく。 ○家庭学習の情報を共有して、確かな学力を付けられるようにする。
担当 授業力向上委員会		
豊かな心	自主的に考え、責任をもって行動する態度を養う。地域の方とのつながりを実感することで、思いやりの心や社会に役立つ行動する姿勢を育成する。	○毎月1回のたてわり活動の中で、学級集団だけでなく異年齢同士のつながりを築く。また、すべての学年が「たてわり遊び」を企画することで、高学年は低学年を支え、低学年は高学年を見習って活動する姿を育成する。 ○「どうぞよろしくの会」や「ふれあい給食」を行い、図書ボランティア、学援隊をはじめ地域の方々を知り、かかわることで人とのつながりを大切にし、感謝の気持ちをもって挨拶をする子どもを育成する。 ○低・中・高学年の発達段階に適した人権啓発活動等を計画・実施し、豊かな人権感覚を育成する。
担当 豊かな心委員会		
健やかな体	基本的な生活習慣に関する活動を全校で取り組む。また、一校一実践運動を継続的に取り組みながら体力向上を目指す。	○「歯磨きタイム」を5分間設定し、全校で継続的に取り組み、歯磨きソングを活用して正しい歯磨きの仕方を身につける。 ○一校一実践運動では委員会活動を中心に休み時間を使って「大縄集会」、「ランニングタイム」を行い、1年間の中で計画的に、継続的に取り組んでいく。 ○学校栄養士と連携しながら、全学級で食育に関する指導を行い、学級担任はばくばくだよりを使って継続的に指導する。
担当 健やかな体委員会		
児童生徒指導	クラスの子ではなく今井の子というスタンスで全職員が共通の指導を行う。また、子どもがどの職員にも相談できるような関係づくりに努め、いじめや問題行動の早期発見を目指す。	○基本的な生活習慣の定着を図り、あいさつ運動を代表委員会等で取り上げ、子どもたちの活動として継続的に取り組む。 ○子どもたちとの信頼関係を日々の関わりの中で築きながら、ルールを守ることを指導し、規範意識の育成を図る。 ○月1回、職員会議内に児童の様子を共有する場を設け、全職員共通の理解で指導を進める。
担当 豊かな心委員会		
安全管理	計画的に避難訓練を実施し、事件事故や災害時に教職員と児童が適切な対応・行動ができるように努める。	○安全管理に関する研修を継続的にを行い、また不審者対応訓練や地震火事等の避難訓練を通して、事件・事故や災害発生時に教職員と子どもたちがともに適切な対応ができるようにする。 ○交通安全教室で各関係機関と連携して、正しい自転車の乗り方、正しい歩行の仕方を身につけるとともに、スクールゾーン対策協議会で出た危険箇所や事故が多い場所等は、保護者児童に周知し、安全に安心して生活できるように努める。
担当 健やかな体委員会		
特別支援	交流を通して、一般級と個別級の連携を深めていく。また、合理的配慮に対する職員の理解を進めていく。	○子ども理解や特性理解を深めるために、校内研修を効果的に行う。また、子どもの変化や状態に応じて、随時学年研やブロック研をもち、指導の工夫をしたり、他機関と連携をとったりしていく。 ○個別支援級の児童がいない学年でも、給食交流等を行うことで個別支援級への理解を深める。 ○教室環境・学校環境の整備を全職員が意識して行い、教室や学校に落ち着いた雰囲気をつくり出す。
担当 豊かな心委員会		
地域連携	家庭・地域・関係諸機関との交流・連携を密にし、今井の地域に生きる子どもを育てます。	○生活科や社会科、総合的な学習の時間などの学習では、今井のまちや自然、地域の方々に触れ、今井の地域のよさに気付き大切に子どもを育てる。 ○「どうぞよろしくの会」や「地域ふれあい給食」を通じて、子どもたちが図書ボランティア、学援隊をはじめ地域の方々とふれ合うことで、感謝の気持ちをもてるようにする。さらに学校と家庭、地域が連携して、進んで挨拶をする子どもを育成する。 ○地域懇談会では、橋中ブロックの教職員、保護者との交流、連携し、地域で育つ子どもたちの目指す姿を共有していく。
担当 健やかな体委員会		
人材育成・組織運営	授業力・教科外指導力・学校運営力の向上を目指していく。	○メンターチームでは、若年層の教師が課題を共有し、解決策を考え、先輩の教員に指導・助言を聞きながら、教師力を向上させていく。 ○全教職員が、学校運営上の諸問題を共有・共通理解し、協働体制の下、課題解決を図るチーム作りを行い、日常的に管理職・主幹教諭が指導・助言を行います。
担当 授業力向上委員会		
いじめへの対応	児童個々の特性理解に努め、個々の児童に沿った教育支援体制の確立に努める。また、道徳教育、人権教育の充実を図る。	○児童の特性を捉え適切な支援を行うための特別支援教育に関する研修を行う。 ○だれもが安心して参加でき、自尊心を高める授業づくり・集団づくりに努める。 ○「特別の教科道徳」において、児童に自己を見つめ、より多角的・多面的にとらえ、自らの考えを深める力を育む学習を用意する。
担当 いじめ防止委員会		